消防団の活動

地域の防災リーダーとして

近い将来発生が懸念されている南海トラフ大地震・大津波、首都直下地震などの巨大災害に備え、災害に強い国土や地域をつくるためには、国や地方公共団体ばかりではなく、市民自らが、自身と周辺地域の人たちの命や生活を守ることができるよう、平常時から災害対応能力を高めておく必要があります。

消防団は、災害時にリーダーシップを発揮し、地域の防災活動を主導できるよう訓練をしています。

地域の防災力を高めるために

大規模地震発生時には、多くの災害や負傷者の発生が予測されます。

消防団員は住民一人一人の防災行動力を高めるため、出火防止、初期消火、応急救護などの指導を行っています。

また、火災予防運動、防災週間や地域の行事に合わせて、災害を未然に防止するため火災予防の呼びかけや警戒活動を行っています。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、地域住民の方々がバケツ